

わたしがいのちのパンです

(ヨハネ6・34〜40)

一、わたしがいのちのパンです

34節に「そこで、彼らはイエスに言った。「主よ、そのパンをいつも私たちに与えください。」とあります。ここに記されている「彼ら」は、ユダヤ人たちです。41節に書かれています。「ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から下って来たパンです」と言われたので、イエスについて小声で文句を言い始めた。」と。ちなみに、ヨハネの福音書における「ユダヤ人」という表現は「主イエスに敵対する人々」の意味合いで語られています。イエスさまだつて人としてはユダヤ人だつたわけですから、「ユダヤ人が〇〇と言いだめた」という表現は、本来なら不自然です。理由は、この福音書が発行されたときに、ユダヤ人がキリスト教徒を蔑視していたからです。すなわちこのことは、主イエスを真剣に求めていた人々のことばではなく、主イエスを非難していた人々のことばであることが分かります。ですが相手が真剣でなかつたら、非難しようとして、主イエスは常に真理のことばを語られました。35節です。「イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしのもとに来る者は決して飢える

ことがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことがありません。」と。実は35節には、一つの仕掛けが隠されています。それは、「わたしはいのちのパンです」とおっしゃったことばにあります。何でしょうか。「わたしはある(エゴ・エイミー)」ということばです。「わたしはある」とは、出エジプト記によれば、モーセが自分に現れた神に向かい、名を尋ねた際に、神が語られたことばです。「わたしはある」という者である」と。そういうわけで35節は、イエスが神であることをヨハネの福音書が暗示しているわけです。主イエスは「わたしは神であつて、神のいのちなるパンである」と語っておられます。主イエスが語られたことばを、ユダヤ人たちは受け入れませんでした。それは、主イエスの口から語られたことばによって分かります。36節です。「しかし、あなたがたに言ったように、あなたがたはわたしを見たのに信じません。」と。

二、イエスとは何者か？

きょうの聖書箇所にかかれてある内容は、ヨハネの福音書4章の、主イエスとサマリアの女との出会い、そして会話と重なります。主イエスはサマリアの女に語られました。「この水を飲む人はみな、また渴きます。しかし、わたしは与える水を飲む人は、いつまでも決

して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます」と。すると、サマリアの女は言いました。「主よ。私が渴くことのないように、ここに汲みに来なくてもよいように、その水を私に下さい」と。この時サマリアの女は、からかい半分で語ったと思われます。ところが主イエスから、「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい」と、一番言われたくないことを言われて真剣になり、主イエスに心を開きました。

一方で、カペナウムのユダヤ人たちは、主イエスが「わたしがいのちのパンです」、さらに「わたしが天から下って来た」と語られたのを聞いて、文句を言い始めました。そういうわけで、イエスがキリストである、イエスがいのちのパンであるとは、聖書を読んだら、あるいは教会に行ったら、だれでも信じられるものではありません。もし信じられるなら、教会はどこも満杯、クリスチャンだらけになっていくはずですが、キリスト教に心を開いている方は多いですが、なぜか日本国では信仰を持つ方は少ないのです。こればかりはどうしようもありません。諦めているわけではありません。現実を受け止め、まず私たち自身が福音に生かされ、キリストがもたらされた希望を握り、歩み続けることが大切です。

私たちは、「わたしがいのちのパンです」とおっしゃったパンを、すなわちキリストの福音のことばを食べ続けたい。それは、「キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと」を思い続けることです。そして聖書を、キリストをあかすする書として読んで、養われることです。神は世にあつて私たちを見放されることなく、キリストを信じている者は、死んだ後によみがえつていのちを受けます。そのことを主は、39節、40節で語っておられます。「わたしを遣わされた方のみこころは、わたしに与えてくださったすべての者を、わたしが一人も失うことなく、終わりの日によみがえらせることです。わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持ち、わたしがその人を終わりの日によみがえらせることなのです。」と。主イエスがおっしゃったのですから、聖霊なる神も、一人も落ちないように働いていらっしゃいます。それは確実なことです。

教会は霊的な生きものです。霊的な器と言っても良いと思います。生きもののいのちが続くためには、毎日毎日のいのちが刷新され続ける必要があります。皆様も主にあつて教会生活に励んでください。